

改訂第5版の序

がんは、わが国で1981年より死因の第1位であり、最近でも年間35万人以上が亡くなっています。厚生労働省の「がん対策推進基本計画」ではがんの年齢調整死亡率（75歳未満）の20%減少を掲げていますが、このままの状況では目標の達成が難しいとされています。そのため、2015年12月に「がん対策加速化プラン」が策定されました。がん薬物療法に関しては、標準的治療の実施率が拠点病院間でも大きな差があること、副作用に苦しむ患者が多く支持療法が十分でないこと、身体的苦痛や精神心理的苦痛の緩和が十分行われていないことなどが指摘されています。がん薬物療法にかかわる医療者は、患者への適切な治療法の選択や十分な支持療法（緩和ケアも含む）の実施に取り組む必要があります。本書がこのたび第5版の改訂にいたったのも、多くの方々が、少しでも良い治療を行いたいと本書を活用していただいた証と思っています。

第5版の改訂にあたっては、新規抗がん剤の発売やがん診療ガイドラインの改訂に伴い新規レジメンの追加・変更を行いました。また、新たな知見にもとづいた内容の追加・修正を行いました。最近では、数多くの分子標的薬や新たな作用機序の免疫チェックポイント阻害薬などが発売されています。そのため、総論には、分子標的薬に追加して「免疫チェックポイント阻害薬投与時の注意点」を新たな章として書きおこしました。

がん化学療法における患者への説明や指導の重要性は、ますます高まっています。治療効果や患者満足度を高めるためにも、本書が薬剤師をはじめ、医師や看護師の方々に活用していただけるハンドブックであることを願っています。

2017年1月

日本臨床腫瘍薬学会 理事長
日本病院薬剤師会 専務理事
遠藤 一司